

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クルーズ長府		
○保護者評価実施期間	令和6年12月23日 ～ 令和7年 1月 17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 (回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和6年12月23日 ～ 令和7年 1月 17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが自発的に活動に取り組めるよう、個々の特性やニーズに応じた環境設定を行っている。内発的動機づけを大切に、学ぶことを楽しみ、色々な事に挑戦し続ける力(非認知能力)を身に付けられるよう支援に努めていること。	こどもが主体となり自発的に活動に取り組めるよう、個々の特性やニーズに応じた環境設定を行っている。内発的動機づけを大切に、学ぶことを楽しみ、色々な事に挑戦し続ける力(非認知能力)を身に付けられるよう支援に努めている。	利用者一人ひとりの特性やニーズに応じて継続した療育を行い、利用者の成長や変化に応じて柔軟に対応できる体制・環境を整える
2	毎月事業所内研修や外部研修(オンラインセミナー)に取り組んだり、FBAを定期的に行い、子どものニーズに合わせた療育を職員間で考え取り組み質の向上、共有化を図っていること。	理学療法士等が運動・感覚指導を行い、粗大運動・微細運動などを取り入れ身体能力の向上やボディイメージなど個々の成長に合わせ活動を取り入れている。	職員が専門的な知識や技術を持ち、療育のしつの向上を高めるために今後も研修などに参加しスキルアップする。
3	地域社会と連携する機会を増やし、買い物レクリエーションや地域のイベントなど積極的に参加し、社会性を学ぶ体験を行っていること。	職員間で毎週、目標を定め意識して支援に取り組む。また、振り返りを行う。ミーティング等でしっかりインプット・アウトプットする事で支援の質の向上に努めている。	各連携機関や学校、保護者との情報共有に努め、利用者にとっての支援の充実繋げる

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども一人ひとりのニーズに応じた支援が求められますが、さまざまな特性を持つ子どもたちが利用するため、すべての子どもに対して十分な対応をすることができない場合があること。	様々な特性を持っている為、一人ひとりに合った支援の提供や多様性への対応が不十分だと、こどものニーズを十分に満たすことができない。	職員の専門性を高めるために、定期的な研修を実施を継続していく。 支援技術、コミュニケーション技法等の知識も深めていく勉強会などを行う。
2	施設の広さが限られる為、活動の幅が狭くなることがあります。運動や集団での活動は効果的に支援が難しくなることもあります	十分な広さが確保できない為、運動や集団活動など必要に応じて施設を借りて行うなどの対応をしています。	施設内の環境の構造化を定期的に見直し、過ごしやすい環境を提供する。
3			